

# 大学受験 地元志向強く

## 駿台調べ 少子化など影響か

道内  
国立  
北大、  
私立  
北海学園大が首位

受験生は地元大学志向が強いことが駿台予備学校の調べで分かった。国立大は45都道府県、私立は19都道府県で地元の大学が1位になっており、少子化や経済事情が現れたものとみられる。

同校は昨年9月に全国模試を行い、現役生の在籍高のある都道府県別に志望校を調べた。調査対象は約38万人で、そのうち道内は約1万2600人。国立大は、共に神戸大が最多だった京都府と奈良県を除く45都道府県で地元

道内の現役受験生の志望大学

■国公立大			■私大		
1	北 大	20	1	北海学園大	17
2	小樽商大	9	2	北星学園大	9
3	室蘭工大	5	3	北海道医療大	6
	道教大札幌校	5	4	北海道科学大	5
6	釧路公立大	5	5	北海道文教大	4
	弘前大	4	7	藤女子大	4
8	札幌市立大	4	7	明治大	3
	道教大旭川校	3	9	天使大	3
8	名寄市立大	3	9	法政大、札幌学院大、札幌大など7校	2
	札幌医大	3			

(駿台予備学校調べ、単位は%)

内は北大が地元受験生の20%を占めてトップ。小樽商大が9%で2位となり、室蘭工大、道教大札幌校、釧路公立大が続いた。道外校は弘前大が6位で唯一上位に入った。私大は岩手、東京、新潟、愛知、京都、大阪、兵庫、広島、福岡、沖縄など19都道府県で地元の大学が1位となった。道内は北海学園大が17%で最も多く、北星学園大、北海道医療大、北海道科学大の順。道外校は明治大が7位で最も上位だった。

このほか東北地方では東北学院大(仙台市)、九州地方では福岡大(福岡市)が1位になる県が多く、地元志向が反映された。

駿台予備学校の石原賢一進学情報センター長は「少子化で親子の距離が縮まり、同居志向は年々強まっている」と指摘し、もともと地元志向の強い道内も「ネット社会が進んで、札幌と東京の情報や文化の格差はなくなっている。家賃が安くて、部屋も広い札幌での学生生活を望む受験生が増えている」と話している。

今日の話題



ほのかなろうそくの  
炎が揺れ、夕闇の街角  
を照らしている。

「小樽雪あかりの路」  
が先週から始まった。名の由来と  
なった伊藤整の詩集の世界に浸れ  
る静かなイベントだ。

いてつく水面に浮き玉キャンド  
ルが映える小樽運河。旧国鉄手宮  
線跡地には、大小さまざまなスノ  
ーキャンドル。連

日、多くの見物客 雪あかりの路  
が訪れる。19回を  
重ね、冬の風物詩となった。

「浮き玉キャンドルも、消えに  
くいらうそくも、小樽の職人技が  
欠かせなかった」。1回目から運  
管に携わる山口保さん(69)は振り  
返る。浮き玉はバランスが取れる  
よう重さなどを調整、ろうそくは  
芯を通常の倍以上に太くするな  
ど、試行錯誤が続いたという。

「大きな会場だけでなく、小樽

の街角至る所に灯を」との呼びか  
けも、徐々に広がってきた。町会  
や学校、企業などが思い思いに明  
かりを楽しむのがコンセプト。2  
日以上行っ地域の場合は今回、40  
を超えた。

伊藤整がかつて暮らした塩谷地  
区でも、地域住民が力を合わせ、  
2日間の会場を設営。文学碑広場  
の小高い丘は、2千本ものろうそ  
くで彩られた。

市内の葬儀社か  
ら譲り受けた使用

済みのものを、1本ずつ手作業で  
再生した。準備に奔走した荒谷五  
十雄さん(78)は「予算も少なくて  
大変だったが、地域を盛り上げら  
れて良かった」と満足げだ。

雪あかりの路実行委によると、  
12日までの期間中、市内の各会場  
で明かりを守るボランティアは延  
べ2千人を超える。熱い思いが路  
を支えている。

(杉本 和弘)